

図書館部報

岡崎市現職研修委員会
学校図書館部
平成29年 9月30日
No. 2



秋の夜長に本を読んでみませんか？

現職研修委員会学校図書館部部長
常磐東小学校 校長 近藤 嗣郎

「読書『月〇冊』33%」

今年の6月のある朝、新聞に目をやると、この見出しが私の目に飛び込んできました。三人のうち一人が本（雑誌・漫画を除く）を1冊も読んでいないということです。この調査は、今年6月に日本世論調査会が、18歳以上の男女3000人を対象に面接方式で実施しました。この主な原因は、スマートフォンやゲームで時間を取られてしまうことでした。

私は、この結果を見て、本離れが進み、新刊書籍の発行がかなり落ち込んでいると予想しましたが、年間約80,000点（雑誌を除く）も新刊が発行されていることを知りました（日本の統計2017総務省統計局）。これを1日換算すると、なんと約220冊の新刊書籍が毎日出版されていることになります。ただし、ここ数年は横這いだそうですが、平成25年度までは、毎年増加傾向だったことは、少し意外であり、なんとなくほっとしました。しかし、出版業界がまだ元気な今だからこそ、本の魅力を伝えていく必要があるのではないかと感じました。特に、考えや価値観が固定化された大人より、まだ柔軟な思考と可能性を秘めた小中学生の子供にこそ、大切ではないかと思ったのです。

本校が毎年実施している学校評価をしたところ、昨年度は「進んで読書をしている」の項目が最も下がっていることを知りました。さっそく教職員で協議をして、「本と向き合う時間の確保」を図りました。具体的には、はげみ読書（週1回の読書タイム）の時間を保障する、年2回の読書週間では、特別な「読み聞かせ」を開催せずに読書時間を優先する、保護者による読み聞かせは、1から3年生の各教室で実施し、4年生から6年生は読書時間の確保に充てました。さらに、本年度の学校目標の1つに、読書の励行を位置づけ、「はげみ読書をしっかりやろう」と提唱して取り組んでいます。

私は、小中学校での読書体験の量が「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力」や「人間性」にも大きく影響していると思います。新学習指導要領は、本年度はその周知・徹底の年です。来年度から移行期間で、小学校は平成32年度、中学校は33年度に完全実施となります。その新指導要領では、「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善」が求められています。自分で選んだ本を自分のペースで想像したり考えたりしながら読むことでは、個人の主体的な取り組みと言えます。自分が選んだ書物の内容について友達や家族に話したり、見たことも会ったことない筆者と対話したり、自分自身と会話したりします。自分が選んだ1冊の書物から、友人や家族、筆者、そして自分との対話を通して、これまでの自分の考えや行動を見つめたり、生活を振り返ったりして、価値観や見方・考え方に影響を与えることは、深い学びであると思います。

つまり、読書活動は、新学習指導要領の象徴的な活動であると思います。「主体的・対話的で深い学び」を実現する読書活動の工夫をすることは、「生きる力」を身に付けさせることにつながっているのではないのでしょうか。

秋の夜長に、好きなジャンルの本を読んでみませんか？

魅力ある図書館の在り方とポップ作りの実践

～授業力・教師力アップセミナー（基礎編）～

8月1日（火）に、授業力・教師力アップセミナー（基礎編）が「りぶら」で行われました。今年度も、45名を超える先生方が熱心に研修に励みました。

今年度は、図書館指導の玄関口とも言える人を惹きつける図書館の在り方をテーマに、「岡崎市立中央図書館資料提供サービス係・主査」の小野祥子様を講師としてお迎えし、2学期からの実践に役立つことを数多く教えていただきました。

研修① 魅力ある図書館の在り方講座

講師の先生から、選書の仕方をはじめとした「りぶら」の図書館として工夫している点を学びました。図書館の本を紹介する手だてとして、「図書缶」での情宣やテーマ本やおすすめの本などの展示方法の工夫など、今後の図書館運営に役立つものを学びました。



くりぶらの本の展示方法を学ぶ

参加者の声

- ・ 人をひきつける本の紹介のしかたについて、勉強になりました。時間をかけずにできそうなこともあったので、やってみたいと思いました。
- ・ 小学校低学年までは絵本を読んだり、頻繁に読み聞かせがあったりして読書好きの子が多いのに、学年が上がるにつれ本から離れていってしまうように感じています。高学年以降も読書から離れていかないよう、10代のティーンたちに向けた取組の数々が勉強になりました。

研修② ポップ作りの実践



＜紹介したい本のポップ作りに熱心に取り組む参加者のみなさん＞

参加者の先生が持ち寄った本についてのポップ作りを行いました。

その後は、作ったポップの交流を行いました。イラストを入れたり、キーワードを強調したりするなど、子どもが本に興味をもつためのヒントを学ぶことができました。

参加者の声

- ・ 大変そうだなというイメージがありましたが、実際にやってみると楽しかったです。また、他の人の作品も見ることができたのもよかったです。
- ・ 実際に作ってみると、目をひくための努力や本を読み直すなど、書き手がより本について知ることが大切だと思いました。

《お知らせ》

◎ 県教研大会の読書・学校図書館分科会において、正会員に、丹下知佐子先生（六ツ美北部小）、市川 翔子先生（竜海中）が決まりました。ご活躍を期待します。